第3学年○組 国語科学習指導案

日 時 平成28年〇月〇日 第〇校時 指導者 教 諭 三浦 直行

1 単元名・教材名

「紀行文を楽しもう」 ○夏草-『おくのほそ道』から-

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】	学 習 内 容	単元・教材名 〈実施時期〉	学習活動と関連する他領域等の指導
・古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。 【第3学年ア(イ)】	・自分たちの生活 につながる「論 語」の言葉を探 し,考えを伝え	「今に生きる『論 語』を探そう」 <3年・4月>	【読むこと】第3学年 エ・「論語」を読み、人間、社会などについて考え、自分の意見をもつこと。
・語句の効果的な使い方に注意 し、語感を磨き語彙を豊かに すること。 【第3学年 イ(イ)】	合うこと。 ・自分の思いを表 ・自語して、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「一句ひねって 投句しよう」 <3年・5月>	【書くこと】第3学年 ア ・俳句の語句や表現上の工夫 の仕方を知り、自分の考え を深めるとともに適切な構 成を工夫すること。

(2) 生徒の実態と本単元の意図

生徒と古典作品との関わりは、幼少時の昔話の読み聞かせにまで遡ることができる。また、小学生時の古典の音読や暗唱などを通して、古文独特のリズム感にも親しんでいる。中学校では『竹取物語』や『枕草子』、『平家物語』などの定番教材を学びながら、そこに表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像し、古典を身近なものにしてきた。しかし、古典に親しんだり理解を深めたりする場面はあれども、日常生活の中に古典で学んだことを生かす場面はそう多くはないのが現状である。

本単元では、日常生活と古典の学習を結び付けることで、古典作品を進んで読み、その世界に親しむ態度を育成することを目標とした。その際、生徒が主体的かつ対話的な学びを通して深い学びにつなげることができるよう、京都・奈良方面の修学旅行において生徒自ら俳諧紀行文を作る活動を設定した。一学期に学んだ俳句の知識を生かし、さらに古典に表現されていることを取り入れることで、国語の授業を離れた場面での生徒の古典作品に対する意識を高めていきたい。

3 単元の目標

- (1) 芭蕉の旅に対する思いを想像しながら『おくのほそ道』を進んで読み、自らの表現に生かそうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
- (2) 歴史的背景を参考にして芭蕉のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができる。 (読むこと)
- (4) 『おくのほそ道』の背景に注意して読んだり、自ら俳諧紀行文を書くことを通して、古典の世界に親しむことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	【関】国語への関心・意欲・態度	【読】読むこと	【書】書くこと	【言】 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・芭蕉の旅に対する 思いを想像しなが ら『おくのほそ道』 を進んで読み,自 らの表現に生かそ うとしている。	・歴史的背景を参考 にして芭蕉のもの の見方や考え方を 捉え,自分の考え をもっている。	・『おくのほそ道』 の表現を考合となり しな験したこと 体験したこと はたれて はないる。	・『おくのほそ道』の背景に注意して読んだり自ら俳諧紀行文を書くことを通して古典の世界に親しんでいる。

習 活 動 即 L た 評

- し,プリントを参 考にしながら『お くのほそ道』を読 み進めようとして いる。
- ②体験したことを書 き出し, 古文の表 現を参考にしなが ら俳諧紀行文を書 こうとしている。
- を読み, 芭蕉の思 いについての自分 の考えを記述して いる。
- ②作品の虚構性に気 付き, その効果に ついての考えを伝 え合っている。
- きしたことや体 験したことのメ モをもとに, 俳 諧紀行文を書い ている。
- ②紀行文に虚構性 をもたせ, 自分 の伝えたい思い を表現している。
- ①単元の流れを確認 | ①『おくのほそ道』 | ①修学旅行で見聞 | ①注釈付きの古文を読み 話の内容と背景を理解 している。
 - ②古文の表現を参考にし て俳諧紀行文を書いた り読んだりして, 古典 の世界に親しんでい る。
 - ③古文の表現と比べるな どして, 古典と自分と の関わりを考えてい る。

5 指導と評価の計画(全5時間)

は、研究との関連事項

時	学 習 活 動	学	習	内	容	評価規準・評価方法/関連事項
1	○単元の流れと学習課題を確認する。○紀行文や俳諧の概要を知る。○『おくのほそ道』より「発端」を音読する。○芭蕉の旅への思いを読み取る。○学習の振り返りをする。		題 芭蕉 	//// 松尾芭 段階	くのほそう ハーハーハ 蕉	道』に倣い、俳諧紀行文に挑戦しよう。 【読】の① ・取組の観察 ・ノートの観察 主体的な学び ・単元計画表 ・実生活と関わりのある学習 課題
2	○『おくのほそ道』より「平泉」を音読する。 ○歴史的背景を参考にして、芭蕉が感じたことを考える。 ○繰り返し音読し、古文に読み慣れる。 ○学習の振り返りをする。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	り背景 典を読 のきま こ表れ	などに むこと りや訓	読の仕	・ノートの観察 対話的な学び
3	○『曾良随行日記』の記述と「平泉」後半部分を読み比べる。 ○虚構性が認められる部分について、その効果と虚構を入れた理由を考える。 ○学習の振り返りをする。	に親し ・文章 や表	典を読 _むこ。 を読み	み,そ と ×比べ, こ方に~	の世界 構成	
	○修学旅行で訪れる場所にどのる。○印象に残った場所や出来事な。○これまでの学習をいかし、俳⁴	どを記録	する。	あるか	確認す	主体的な学び ・見通しをもって粘り強く取り組 むこと ・修学旅行のしおり
4	○『おくのほそ道』の表現に倣 い, 俳諧紀行文を書く。	紀行づ適切な				【関】の② 【書】の① 【言】の②

- ○書いた文章を推敲し、清書す 表現の仕方 る。
- ○学習の振り返りをする。
- ・古文の表現を参考にし て, 古典に親しむこと
- ・取組の観察
- ワークシートの観察
- ノートの観察

深い学び

- ・言葉で理解したり表現したりし ながら自分の思いや考えを広げ 深めること
- 俳諧紀行文

- 5 ○作品を読み合い, 伝わった思 いやよいと感じた表現などを 確認する。
 - ○虚構性のある部分について, 古文と比べながらその効果を 話し合う。
 - ○芭蕉と自分たちの、旅に対す る思いや表現のしかたを比べ 考えたことを話し合う。
 - ○単元の振り返りを行い, 学ん だことや考えたことなどをノ ートにまとめる。

五月雨けむる空のもとで、光堂は燦然と輝き、

かつての栄光を偲ばせていることだ。

- ・展開の仕方や表現の仕方 などについて評価して, 自分の表現に役立てるこ لح
- ・表現の仕方や伝わり方
- ・ものの見方や考え方を深 対話的な学び めること
- ・古典と自分達との関わり を考え, 古典の世界に親 しむこと

【書】の② 【言】の③

- 取組の観察
- ・作品の観察
- ノートの観察

・ 互いの考えを伝え合い、考えを 広げたり、深めたり、高めたり すること

深い学び

- ・自分が表現した言葉を問い直し て、思いや考えを深めること
- 俳諧紀行文作品集 主体的な学び
- ・自分の学びや変容を見取り、評 価すること
- ・国語学習記録の充実

6 資料

①注釈テキスト

『大村はま国語 教室3』に掲載の 萩原廣道式テキス トを参考に作成。

古文の右側に現 代語訳と補うべき 助詞や言葉,左側 に読み仮名や歴史 的仮名遣い, 文法 的事項などを書き 入れたテキスト。

生徒が古文を読 みながら, その内 容を理解できるよ うに配慮している。

記念とはなれ →遠い昔をしのぶ) たに かたみ(強調) 五 →この寺の建てられて以後、五百年にわたって年々降り続けてきた五月雨も、 さみだれ 月 囲みて、 雨 0 降 V) りる 残 してや (お) おほ(い) ここだけは降り残したのであ

甍を覆 ひて 風 雨 を凌 ぎ、

ばらく 千歳 せんざい

ち て、 既に言う 頹廃 荒れはてて 何もない 空虚の 草むらとなるべきを、

散 1) 失せて、 玉の 扉 風 に破 机 こがね 金の

柱

霜

雪

1=

七宝

※七種の宝物。金・銀・瑠璃・玻璃・瑪瑙・(しやこ)・珊瑚

光堂 は 三代 0 棺 を 納 め Ξ 尊の仏を安置

す

★曾良随行日記→「経堂は別当留守にて開かず」 驚かし たる二堂開 阿弥陀如来・観世音菩薩・勢至菩薩 帳 する (きょうどう) 経 堂は三将の像

(中尊寺の) Ξ 組 番 氏

お

くの

ほそ

道

(3)

ねて耳

清衡·基衡· (※実際とは異なる

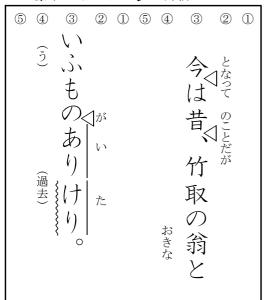
L 29

めん面

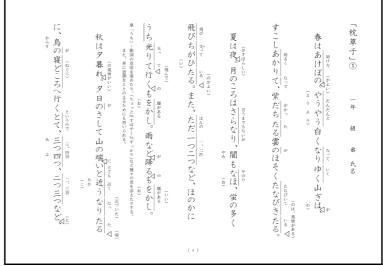
(テキスト作成の実際)

ジャストシステム社の日本語ワード プロセッサ「一太郎」で作成したもの で,具体的には次のように調整した。

- ・A4横(印刷時にB4に拡大)
- 縦組
- ・余白 各20ミリ
- •字数 51字(字間4%)
- · 行数 44行 (行間83%)
- 標準フォント JS明朝 9P



(第2学年『枕草子』テキスト例)



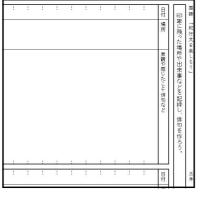
- ①・②行目現代語訳(傍線部)補うべき助詞や言葉(図形△印)
- ೨/17 日 - 原文(HGP教科書体 20P)
- ④・⑤行目 読み仮名 歴史的仮名遣い(括弧) 文法的事項など(波線と括弧)

②単元計画表

学習の見通しをもたせるために,単元の初め に配付する。右は全ての時間の計画を入れた例 だが,学習状況の実態に応じて,途中の目標や 計画を生徒自身に記入させることも考えたい。

また、「学んだことや考えたこと」欄の代わりに、学習のてびきとなる事柄を書き込んでおくことも生徒の主体的な学びを助ける上で有効である。学習の振り返りはノートに記入させるようにすると、枠にとらわれずに考えを書くことができる利点がある。

③修学旅行のしおり



ž.	
◎単元の課題	3課題
芭蕉	の『おくのほそ道』に倣い、俳諧紀行文に挑戦しよう。
◎学習の流	流れ
学習日	主な学習活動
1	□芭蕉の旅への思いを読み取る。□松尾芭蕉『おくのほそ道』より、「発端」を読む。□紀行文や俳諧の概要を知り、ねらいを確認する。
/	□歴史的背景などを参考にして、芭蕉が感じたことを考える。□松尾芭蕉『おくのほそ道』より、「平泉」を読む。
1	□『骨良随行日記』の記述と読み比べ、作品の虚構性について考える。□『おくのほそ道』に読み慣れる。
	□(修学旅行中)これまでの学習をいかし、俳句をつくる。□(修学旅行中)印象に残った場所や出来事などを記録する。□「修学旅行で訪れる場所を調べ、どのような見所があるか確認する。
/	※作品は授業当日に提出。準備をしておくこと。 ※作品は授業当日に提出。準備をしておくこと。
/	□芭蕉とみんなの、旅に対する思いや表現のしかたについて話し合う。□芭蕉とみんなの、旅に対する思いや表現のしかたについて話し合う。□性品を読み合い、楽しむ。